

## プラント状況確認結果（平成25年3月12日～3月19日）

平成25年 3月 19日

福島県原子力安全対策課

○ 平成25年3月12日～3月19日12時までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所1～4号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりです。

⇒ この期間において、不具合等の連絡(特記事項参照)を1件受けました。

3月18日に発生した所内停電により、1・3・4号機及び共用プールの使用済燃料プールの冷却設備が停止しました。その後、設備の健全性確認を行うとともに、電源付け替えにより順次復旧を進めています。なお、原子炉への注水冷却、窒素封入は通常どおり継続されており、敷地境界モニタリングポストでの異常値は確認されておりません。

また、敷地境界モニタリングポスト、発電所専用港内外海水・敷地内大気・タービン建屋付近サブドレン水中の放射性セシウム濃度には、有意な変動は見られませんでした。

### (1) プラント状況（3月19日午前5時）

場所	目的	監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機※2
原子炉※1 (核燃料)	冷却	注水量 (m <sup>3</sup> /h)	4.3	5.3	5.3	—
		圧力容器 下部温度(°C)	<u>19.3</u>	<u>33.4</u>	<u>31.8</u>	—
	未臨界確認	キセノン135濃度※3 (Bq/cm <sup>3</sup> ) (A系)	1.90×10 <sup>-3</sup> (B系)※4	検出限界未満	検出限界未満 (B系)※5	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中※5	—
格納容器		水素濃度 (A系)(体積%)	0.09 (B系)※4	0.06	0.14 (B系)※5	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	16.0 (18日17時)※6	17.4	13.8 (18日17時)※6	25 (18日17時)※6

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧下さい。

※2 4号機は原子炉に燃料が入っていないため空欄。

※3 保安規定に定める制限値は、1 Bq/cm<sup>3</sup>以下である。

※4 A系は作業に伴う停止のため、B系データを記載。

※5 A系は電源設備停止による欠測のため、B系データを記載。

※6 電源設備停止による欠測のため、前日のデータを記載。

【参考】原子力規制庁が発表した3月19日午前7時現在の使用済燃料プールの温度(評価値)は、1号機:17.0°C 3号機:15.8°C  
4号機:29.8°C 共用プール:28°C。

### (2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果（3月19日午前10時）

最小 2.6 (MP-6) ～ 最大 6.9 (MP-3) マイクロシーベルト/時 ⇒ [計測地点の地図](#)

※定期点検のため、MP-7は欠測。

### (3) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果（3月18日採取分）

最小 7.5 (2号機スクリーン(シルフェンス外側)) ～ 最大 56 (3,4号機スクリーン(シルフェンス内側)) Bq/ℓ

(4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(3月18日採取分)

5,6号機放水口北側に30m: 検出限界未満

1~4号機放水口から南側に1.3km: 検出限界未満 ※検出限界値は1.4 Bq/ℓ

(5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果(3月18日採取分)

西門: 検出限界未満 ※検出限界値は約 $2 \times 10^{-7}$  Bq/cm<sup>3</sup>

(6) 1~6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(3月18日採取分)

最小 検出限界未満(4号機) ~ 最大 1.4(2号機) Bq/cm<sup>3</sup> ※検出限界値は0.02 Bq/cm<sup>3</sup>

【特記事項】

- ・3月18日 18時57分頃、福島第一原子力発電所において、所内電源系統の一部で停電が発生したことに伴い、1・3・4号機使用済燃料プール及び共用プールの冷却設備等が停止した。原子炉への注水冷却及び窒素封入(水素爆発防止のため注入している)については、通常どおり継続されており、敷地境界モニタリングポストの放射線量率に異常は確認されていない。電源設備の停止原因については調査中であるが、電源付け替えにより順次復旧を進めている。3月19日18時までに、1号機と4号機使用済燃料プールは冷却を再開しており、3号機は19日20時頃、共用プールは20日8時頃までに復旧となる見込である。

(問い合わせ 024-521-1917)